

施策 No.	政策名	活力ある産業のまちづくり	主管課	農林課	主管課長名	石川 幹夫
4-1	施策名	農林業の振興	関係課	農業委員会、商工観光課、生活環境課、給食センター、ヤマザクラ課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度			
					見込値	実績値	見込値	実績値	見込値	実績値	見込値	実績値
農業者 担い手が育成されて、農業が活発に営まれている。	①販売農家戸数		人	見込値	1,600	1,580	1,560	1,540	1,520			
					実績値	1,581						
				見込値								
					実績値							
				②市内の農業所得総額			千円	目標値	380,000	390,000	400,000	410,000
					実績値				548,119			
	目標値	285	290					295	300	310		
		実績値	280									
	③耕作放棄地面積			a	目標値	4,107.0	4,153.0	4,199.0	4,245.0	4,291.0		
		実績値				4,760.0						
④山林整備面積			ha	目標値	16.5	15.0	15.0	15.0	15.0			
		実績値			16.8							
⑤有害鳥獣捕獲頭数			頭	目標値	750	750	750	750	750			
		実績値			793							
成果指標設定の考え方	農業が活発になるためには、地域農業の担い手である認定農業者の増加に加え、農業従事者の所得向上が不可欠である。また、それらを満たす条件として、耕作放棄地の減少や有害鳥獣の駆除などの農村環境の整備が必要である。											
成果指標の把握方法と算定式等	①「市内の農業所得総額」- 税務課の課税データ ②「認定農業者数」- 農林課所管の認定農業者名簿 ③「耕作放棄地面積」- 農業委員会所管の耕作放棄地調査表 ④「山林整備面積」- 農林課所管の森林整備事業実施面積 ⑤「有害鳥獣捕獲頭数」- 農林課所管の有害捕獲計画											

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がすべて向上した	<input type="checkbox"/> 向上した成果が多かった	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input checked="" type="checkbox"/> 低下した成果が多かった	<input type="checkbox"/> 成果がすべて低下した	
背景・要因	①農業所得については、28年度654,134千円、29年度で548,119千円と減少している。これは、飼料用米の作付け拡大に伴う交付金が増加している一方、大規模な降ひょう被害や複数回発生した台風により、露地野菜や葉たばこが減収になったことが要因と考えられる。 ②認定農業者数は、例年に比べ更新者数が多かったものの、高齢による経営規模の縮小や後継者の不在で認定更新を辞退する農業者が多かったため、28年度は279人、29年度280人と横ばいの結果となった。 ③耕作放棄地については、28年度4,100a、29年度4,760aで前年度から660a増加している。これらは、中山間部でのイノシシによる農作物の被害増加により、年々農地の遊休化から放棄地へと進行していることによる。 ④山林整備面積については、森林機能緊急回復整備事業で、28年度は10haの山林を整備した。29年度は、11.4haの山林を整備し、これは山林の間伐等の整備要望が増加したため前年度と比べて、山林面積が1.4haの増加となった。また、身近なみどり整備推進事業は、28年度は、6.8haの森林整備をした。29年度は、5.4haの森林を整備し、これは、平地林や道路沿いの森林整備要望に係る整備面積が前年度に比べて1.4haの減少となった。 ⑤有害鳥獣捕獲頭数は、29年度から新たに設定した成果指標であり、29年度の目標値は達成した。しかし28年度の捕獲頭数は、933頭であり、それにくらべると29年度の捕獲頭数は、793頭で下回っていた。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値を上回ったものが多かった	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 目標値を下回ったものが多かった	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	①市内の農業所得総額は、平成27年度より上昇傾向にあり、29年度は目標値380,000千円に対し、548,119千円と目標値を大きく上回った。 ②認定農業者数は、29年度目標値285人に対し280人と5人下回った。 ③耕作放棄地面積は、29年度目標値4,107aに対し4,760aと拡大し放棄地増加に歯止めがかかっていない状況である。 ④森林整備の要望が増加傾向にあり、29年度目標値16.5haに対して16.8haを上回った。 ⑤有害鳥獣捕獲頭数は、29年度目標値である750頭に対して793頭と目標値を上回った。		

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
<ul style="list-style-type: none"> 市内農業の中心経営体である認定農業者等に対し、必要な農業機械やパイプハウスの資材費補助などを行い経営を支援した。 補助事業を活用した農産物加工(柚子・オリーブ)に取り組む農業者を支援するとともに、市内農産物の販売促進に向けたPR活動を積極的に実施した。 市内農地1,929haで草刈り、植栽、施設補修等を、多面的支払交付金事業を活用し実施することで、地域農村環境の保全が図られた。 農地中間管理機構へ農地を貸し出す方に農地集積協力金を交付し、担い手への農地集約化に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 認定農業者は、減少傾向にあるが、農業法人化を進めることで量から質への転換を図っていく必要がある。このため農地集積による生産性の向上や各種助成制度を利用した効率的な農業経営を支援していく。 耕作放棄地については、農業委員及び農地利用最適化推進委員による実態把握調査を行い、耕作放棄地の解消に努めていく予定である。 有害鳥獣対策事業のイノシシ捕獲の担い手の確保及び育成を推進していく。